

第15回 松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピック

やさシティおもてなシティ推進会議

- 1 日時 令和2年8月6日(木) 10時00分～10時50分
- 2 場所 松戸市役所 新館5階 市民サロン
- 3 出席者 委員11名のうち9名出席
- 4 傍聴者 2名
- 5 会議経過 (1) 開会 10:00
(2) 挨拶
傍聴確認(事務局より傍聴者2名と報告)
議事録署名確認(名簿順につき須田委員に依頼→了承)
資料確認(配布漏れなし)
(3) 報告
①2020年度以降 事業実施計画について
②松戸ゆかりの選手 東京2020大会出場に向けた現状
(4) 議題
①東京2020大会延期に伴う第3次行動計画の改定について
(5) 閉会 10:50

6 議事概要

○長江会長

委員の皆様、おはようございます。本日の会議の円滑な運営につきまして、委員の皆様のご協力をいただきたいと思いますので、よろしく願い申し上げます。

それでは、次第に沿いまして進めさせていただきます。新型コロナウイルス感染症拡大の関係もございますので、報告と議題を一括して事務局よりご説明いただき、その後、委員の皆様よりご意見をいただければと思います。

それでは、事務局より説明をよろしく願いいたします。

(事務局から一括して説明)

○長江会長

ありがとうございました。

それでは、ただいまの事務局からの説明に対しまして、委員の皆様からご意見を伺いたいと思います。

それでは、岡本委員から順番で、どんなことでも結構ですので、気づいたこと、あるいは伺いたいことがありましたら、よろしく願いいたします。

○岡本委員

動画の中の選手の言葉で、「心を一つにして頑張っていきましょう。」という声がありましたけれども、これをそのまま我々から選手の皆さんに送ってあげたい言葉だなと思いました。選手になる方や松戸市関係者でもいいので、そういう声かけをして、力づけてやるというような機会をぜひ設けていただけたらと思いました。各選手が所属している団体などでいろいろやっていると思いますけれども、我々のような立場からそういうことをやる機会というのをつくってあげたいなと感じました。

というのは、コロナが第2波でこれだけ発症していますと、耳に入ってくる言葉というのは、オリンピックというのは大丈夫なのかな、中止になるだろうという、そういう言葉が結構聞こえてきます。ですので、選手の気持ちを考えると、モチベーションをずっともって、自分の技術を上げていくというのはなかなか難しいなと思います。そういう意味でも選手たちへの言葉というのはとてもいい取り組みになるのではと感じました。

以上です。

○長江会長

ありがとうございます。生の声で励ましていくような、そういうような機会を作っていただけたらと思います。

○事務局

今おっしゃってくださった、選手の方を応援する、市として言葉を届けたいという思いはすごくあります。ただ、現在の状況だと接触できないので、例えばYouTubeなどで今度は市から応援していますよ、という動画をつくって流すとか、そういったこともできたらいいのではないかなと思いました。最近、松戸市としても、市長が動画で市民の皆さんにメッセージを発したり、各課でもメッセージを発しているの、そういった機会もぜひつくれたらいいのではないかなと、お話を伺っていて思いました。

○長江会長

ありがとうございます。

それでは、尾崎委員お願いできますか。

○尾崎委員

スポーツメーカーの一員としても、オリンピックが1年延期ということとともに、いまだスポーツの大会開催が非常に困難な状況であると、あるいは選手によっては、先ほどの動画のコメントにありましたように、練習する環境の確保も大変だと、これを本当に乗り越えて、オリンピックに向けて開催を信じてやっていきたいなと思っています。

しかし、思いだけでは何ともなりませんので、感染予防対策、特にスポーツは密が基本の部分もありますし、それを支えている学校とか、競技関係者の皆さんもご苦労が絶えないと思います。そのような状況だと思っていますので、スポーツメーカーの一員としてもしっかりバックアップして、一体となって開催を信じて進めていきたいと思っています。

最後に、今、日本のトップ選手の施設でありますナショナルトレーニングセンターも、やはり感染予防対策を万全にして選手を迎えて合宿を行ったり、トレーニングをしているのですが、先月末に、ウェートトレーニングなんかするような場所に、パーティションを全部のマシン一つ一つに囲って、万全の飛沫防止対策のそういうものを設置しました。それぐらい、感染対策の大変さと、それでも何とか選手を支えていこうという関係者の皆さんに我々も応えられるように、おそらく松戸市の中でもそういうことがあると思いますので、しっかり役割を果たして、対策をやっていきたいと思っています。

以上です。

○長江会長

ありがとうございます。伊藤委員、いかがでしょうか。

○伊藤委員

事務局の皆さんもこのような状況でご苦労されているということが分かったし、先ほどの動画を見ると本当にいろいろやっていたんだなというのが分かるので、できれば、この機会を通して選手の皆さんにも伝えたいと思っております。

今ご説明の中で気になるのは、事前キャンプが本来であればもう終わっているわけですね。だから、それに向けて本当にいろいろな準備をされてこられたと思うんですけども、来年になったことによって、新型コロナウイルスの感染状況が今後どういうふうになって、例えば来年の3月、4月、5月あたりにどんな状況になっているのかによって様相が変わると思います。松戸市のほうとしても、事前キャンプについての施設等もほとんど完成し、今一部制約がありますけれども、事前キャンプを実施できることになると思います。それに加えて、新型コロナウイルスとの関連で、相手国の選手の状況、選手の練習状況とか、恐らく延期になったことによって変わってくると思うので、本来であれば、7月に来るはずだったのが、来年になったことによって、もっと早く来るのか、あるいは逆にもっと直前になってしまうのか、いろいろなことで状況が流動的になると思うので、資料にあるとおり相手との折衝と書いてあります

けども、できる限り密に折衝いただいて、いろいろなリクエスト、イレギュラーなリクエストが来るかもしれませんので、それに対して可能なところは対応して、成功に導けるように、本当に皆さんの対応が柔軟というか、どんな場合にもうまく対応できるようなことでやっていっていただけるような努力をしていただければと思っています。これからまだしばらく期間はあるので、いろいろな機会動きがあると思いますので、これから相談していければと思います。

以上です。

○長江会長

ありがとうございます。須田委員のほうから、よろしく申し上げます。

○須田委員

私からは、観光協会として、今年は3月以降のイベントがずっと中止になっていて、恐らく11月ぐらいまではイベントが開催できない、人を集めるということがなかなかできない状況です。そのような中で観光庁からは、様々なコロナ対策も含めた補助金が出ており、実際できるかどうか分からないのだけど、イベントを実施するに当たって、どういうスタイルでコロナ禍においてやった方がいいのか、野外、それから屋内なのか、コロナ対策はこのようなことをするんだという形を関係団体とも一緒に進めながら、実際にやってみて検証を行っていこうと思っています。オリンピックや事前キャンプのようなスポーツイベントなんかも、今出ている一般的なガイドラインに定められているプラスアルファの何か対策があるのかというところで、解決の力になればいいかなと思っているので、そういう部分でご協力していきたいと思っています。

○長江会長

ありがとうございます。佐々木委員のほうから、よろしく申し上げます。

○佐々木委員

自分のほうは選手的な目線で、さっきの動画にあったみたいに、やっぱり選手一人一人がモチベーションをキープするのは、ものすごく大変だと思います。自分もオフシーズンを含めて8か月間、ひたすら練習と自宅の往復しかしていないので、人前が出る機会も減ってしまって、精神的に結構追い詰められている選手もいるし、二極化している状態で、さっきの動画のように、こうやってお声をかけてもらうのは、今の状況では選手にとっては貴重な経験というか、気分転換にすごくいい機会だと思うので、これだけゆかりの選手がたくさんいるんだったら、一人一人にもっとフォーカスして、長めのVTRとかつくるなどの機会をつくってもいいのではないかと感じました。

自分のほうからは以上です。

○長江会長

ありがとうございます。西機委員のほうから、よろしく申し上げます。

○西機委員

ちょっと違った視点からになりますが、この会議をとおして、私のほうでレ

ガシーということで、事前キャンプとか、オリンピックの瞬間ではなくて、その先にどういうふうにつなげていくかということをご意見させていただいていました。こういう状況になって、この先もどうなっていくか分からない中で、先ほどの動画もそうなのですが、オンラインで逆につながる距離がすごく近くなった部分が多分にあると思います。私の大学なんかでも国際協力でインドネシアと連携しており、Zoomとかいろいろなオンラインを使いながらサポートしたり、情報交換したり、つながったり、先のことを一緒に考えたりとかというようなことが、今までと違った方法でつながりができてきており、そういうリテラシーが高まってきています。こういう機会に最悪の事態のことを想定しつつ、準備をして、その先もつながれるせつかくの機会で、ドミニカとかルーマニアとつながれたわけなので、それを仮にオリンピックが開催されなかったときにもどのように残していくかということは今からやっておくと、中止になってからでは間に合わないと思うので、実現できたシナリオとできなかったときのシナリオを今から進めるというのは大事なかなというふうには思います。

それで言うと、先ほどのアスリートとのつながりもそうですね。アスリートの方々とも、出場できなかった場合でも、やっていただけること、やってもらいたいことがあると思うので、そういうことを進めるといいかなと思いました。

○長江会長

ありがとうございます。太下委員のほうから、よろしく願いいたします。

○太下委員

オリンピックが1年間、コロナの影響で延期ということになってしまったわけですがけれども、すごくポジティブに考えると、いろいろな時間的な猶予が与えられたというふうにも捉えることができると思うんですね。先ほど映像でもご紹介がありましたとおり、松戸市さんの場合、ホストタウンとしてドミニカ共和国とルーマニアという2か国と交流が始まっているわけなのですが、ご案内のとおり、オリンピックというのはスポーツの祭典だけではなくて、文化の祭典でもあるということで、文化プログラムというのが非常に重要な位置づけになっているわけです。行動計画にも文化プログラムというふうに書かれてあるのですがけれども、コロナ禍という状況がありますけれども、西機委員もおっしゃったように、オンラインとか、いろいろなやり方はありますので、時差とかがあって、いろいろ大変な部分がありますけれども、この1年間をかけて市民レベルでいろいろな交流をホストタウンの2か国とやっていけばいいのではないかと思います。

個人的には実は松戸市さんが2か国とずっとやっているのはもちろん存じていたんですけど、ドミニカ共和国とドミニカ国を勘違いしてしまっていて、その違いも分かっていなかった。市民の方も分かっているのかなと思うんですね。せつかく1年間あるのだから、オンラインとかでできるやり方でじっくり文化プ

プログラム、文化交流していくと、仮に万が一、オリンピック自体がコロナの影響でなくなったとしても、交流自体は何かレガシーとして確実に残ると思うんですよね。ぜひそういう地道な交流を、せつかく与えられた1年間という機会ですべてやっていただければいいのではないかと思います。

○長江会長

ありがとうございます。それでは、薄葉委員のほうから、よろしくお願ひします。

○薄葉委員

須田委員と同じように自分の組織の話になってしまいますが、緊急事態宣言の時には2分の1在宅勤務、それから、3分の1在宅、6分の1在宅になり、7月で終わりました。我々の組織は人に会うというのが仕事の基本ですから、コロナに感染しないように、どうするかというのは我々の問題ですけれども、コロナをどう退治するかというのは松戸市の問題でもないし、日本国中の関心の問題でもあるし、それは国などが大いに力を入れてやっていくことで、コロナ退治とコロナに感染しないように工夫することは全然違うと思います。

そういう前提に立って、先ほど選手を励ますメッセージを送るとか、先ほど言われていた、ドミニカ共和国やルーマニアとのホストタウンとして将来どう付き合うかということのお話も出ていましたが、私は来年、オリンピックができるかもではなくて、やるという前提で、今やるべきことを淡々とやっていくということが重要だと思います。松戸市のオリンピック担当課の業務を淡々とやっていくことが、仮に開催しなくなっても、その先はつながると思います。あまり難しいことを考えるよりも、今日または明日、または1か月後に何をするか計画することが大切であり、今の状況でできるのかということを検証し、できるものをやり、この状況でできなくなったものはやらないということを整理してやってしかないかと思っています。

以上です。

○長江会長

ありがとうございます。

私のほうから2点ほどよろしいでしょうか。

1つ目は、松戸ゆかりのアスリートの方と、それから、松戸市の取組、2つの手づくり動画、すばらしいなと思います。それをユーチューブにアップされるとともに、せつくなので松戸駅の東口に大きなビデオが流れる場所があるので、ユーチューブで見ていただくというPR方法に加えてそこでも流していただいたら、お年寄りや子どもも、松戸市が何をやっているのかということを知ってもらえるのではないかと思います。さきほど委員の方からも、こんなにたくさんやっているのかいうふうに知らないことのほうが多いのかなというふうに思いました。

それから、2つ目として、レガシーとしてつながることなのですけど、

いろいろなことをやっている中で、5年間続けている夢の教室というのが、ほかの市でやっていることと比べるとということではないですが、とてもいいことだと思っています。それも小学校5年生全クラスで実施しているんですよ。小学校5年生は、自分というものが確立して、母国語もある程度確立して、自分のことを考えることができる、中学校につながる年齢です。ここで子どもたちの声というか、アスリートがやっているよという写真はいいんですけど、子どもたちがどんな影響を受けたかということのほうの発信もぜひリアルな言葉として伝えるというのもいいのではないかと思います。個人情報がありますから、顔出しが大丈夫な子やダメな子もいると思うんですけど、A君、B君ですか、〇〇小学校5年生でも結構ですから、オリンピックとかパラリンピックに対する期待とか、アスリート、スポーツに対する思いとか、それから、総合的なオリンピックという文化に対する理解みたいな生の声をぜひ伝えていただきたいというふうに思います。そういう子たちが10年後、20年後に自分の中のしてもらったこと、参加したこと、その記憶というのはつながっていくと思います。

それから、先ほどから挙げていただいているルーマニア、ドミニカ共和国の方々との交流をぜひもっとやっていってもらえたらと思います。配られた啓発グッズの中にも、例えば「ルーマニア頑張れ！HAI România」という簡単なルーマニア語とか、簡単なドミニカ共和国の言葉を学ぶユーチューブレッスンみたいなものも面白いのではないかと思います。今はオンライン英会話とかありますし、そういう簡単なもので、例えば10個言葉を覚えるとかなり会話ができるようになるみたいな、そういうようなことを含めて、ぜひ情報発信をさせていただくと、松戸的なおもてなしの気持ちにつながるように思います。コロナだからできないんじゃないかと、コロナだからこその方法を考えていただければいいのかなと思っています。

それでは、各委員の皆様から頂きましたご意見、ありがとうございます。

今日はコロナ対策ということで、3密を避けるとか、アクリル板を前にしての会議となりました。最後に、皆様のほうから何かご質問とか、ご意見とか、ありますでしょうか。

事務局のほうから何か追加説明とか、ここで話ししておきたいとかということはありませんでしょうか。

○事務局

本日頂きましたご意見ですが、レガシーという視点というのは常に念頭に置いてやっております。やはり文化プログラムというのもかなり大切だし、アスリートを大切にして、市民の交流というところも深くやっていきたいと考えています。ただ、コロナウイルスの対応というのがやはりありますので、そこでどんな工夫で我々がやっていけるかという知恵を出しながら取り組んでいかなければならないと思っていますが、信念としてオリンピックはやるんだという、

その信念を持って取り組んでいくつもりでやっておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

○長江会長

ありがとうございました。

それでは、本日の会議はこれで終了させていただきたいと思えます。

次回の会議は、日程が決まり次第、皆様に正式にご通知申し上げます。本日は本当にありがとうございました。